



旧本社前（上田市塩川）の試作田にて脱穀風景

写真左側に唐箕を使用しているのが見受けられ、右側にはベルトで繋げた動力による籾摺り機が写っている。  
昭和初頭の写真ではないかと思われる。

1. 昭和初期 旧本社前の試作田にて脱穀風景 ……表紙
2. 一松山記念館収蔵の農具― 四つの唐箕の物語 … 2～5
3. 松山記念館リニューアルオープン予定 …………… 6
4. 報告事項 …………… 7～8

# —松山記念館収蔵の農具—

## 四つの唐箕の物語

学芸員 松井 以久子

当館にとって今年には創業者松山原造の生誕一五〇年という節目の年になります。また二〇二五年一月に建物・内装のリニューアル工事に着手、十一月二十一日の原造の誕生日にリニューアルオープンが予定です。それにとともに収蔵品の整理や移管等を行っていた過程で展示品の唐箕以外に収蔵庫に五点、合計六

点の唐箕があることがわかりました。今回はその内の墨書き等がある四点の唐箕の作り手等について紐解いてみようと思います。

### 唐箕とは

広辞苑によると唐箕とは、農具の一つ。穀物に混ざった秕・粉殻・藁屑などを除去するもの。鼓胴の内部に設けられた翼車を回転し風を起こす。上部の漏斗から落下されると軽い夾雑物が飛ばされ選別される。颶扇―と書かれています。米作においては刈り取った米をハゼ掛け等で天日乾燥させ、その後脱穀し、もう一度籾を乾燥させ

てから土臼挽きなどで籾殻と玄米を分離し、更に籾殻や籾に混ざった稲の葉や藁などのごみを取り除いて玄米にします。この手動の風を利用し比重によって選別する道具として唐箕が使われていました。この一連の作業は、戦前まで一般的に行われてきた収穫後の流れです。

わが国最古の紀年銘（製作年または購入年がわかるものを指す）のある唐箕は、京都府にある明和四（一七六七）年銘の唐箕だといわれています。また文字として唐箕の記述が確認されている最古のものは『会津農書』上巻に書かれているそうです。この『会津農書』とは貞享元（一



写真1 こちらの『会津農書』は昭和19年に小野武夫氏によって出版された（上田市市立図書館蔵）

六八四）年に会津藩内の佐瀬与次右衛門が書いた農書で、江戸時代の農書の代表作とされる宮崎安貞の『農業全書』より十三年早く書かれたものです。その『会津農書』上巻によると、唐箕は会津地方で貞享元（一六八四）年に使用記録があり、「ぬかを去るにハ昔より箕を以簸、今颶扇を仕ふハまれ二有。」という記述がされています。これは颶扇（唐箕）を使うひとは稀である、と書かれており会津地方において使用されてはいたけれどもまだ一般的ではなかったことがわかります。この『会津農書』は様々な書き手による写し本の形で残っており、原本は発見されていません。その中に寛延元（一七四六）年写しの『会津農書』下巻には、農具一〇〇点あまりの解説が書かれていて、唐箕もその使用方法や使用年代・移入経過などが記述されているそうです。上田市立図書館にも『会津農書』が所蔵されていますが、残念ながらことに唐箕の説明分の記述や、農具一〇〇点の解説が書かれていない写本でした。（写真1）

### 長野県下における唐箕の使用

県下において紀年銘のある唐箕として一番古いものは松本市立博物館所蔵の唐箕で、「天明二年（辰）（一七八二年）「庄内組」と墨書きされています。この唐箕は翼車軸のバリエーションによって唐箕を分類した近藤雅樹氏の調査によると全国で二番目に古いとされています。形態としては唐箕を支える脚数は四本で選別口は並列、羽根は四枚という構造で出来ています。その二年後天明四年に作られた唐箕が長野県諏訪郡富士見町にある井戸尻考古館に展示されています。こちらの唐箕の形態は、唐箕を支える脚数が六本で選別口は左右振分で羽根の枚数が三枚、となっていて松本市立博物館の天明二年の唐箕とは脚数・選別口の場所・羽根の枚数等何点かの相違点があります。これらの相違点からすると、二つの唐箕は全く違うところから長野県に入ってきたものと思われる。長野市立博物館の細井雄次郎氏の調査によると、その他長野県内において江戸時代に作られたとされる唐箕は十三点にもおよんでいます。

長野県下において唐箕が使用され始めた時期については『松本市誌 第二巻歴史編Ⅱ近世』

には「唐箕は弘化期ごろからひろく使用されるようになった」と書かれています。弘化期とは一八四四年から江戸時代が終わる二十年ほど前にあたります。しかしこの時期に長野県内で一般的に唐箕が使われていたわけではないようです。では長野県内においていつごろから唐箕が一般的に使われていたかを調べると、『長野県史 近代史料編第五卷（二）農業』（当館蔵）には明治五（一八七二）年に書かれた、「大蔵省宛長野県農具目録報告」には唐箕の記載は見当たりません。明治十五年に更科郡長中島誠一宛に書かれた「更科郡力石村農具使用解説書」には手鋳や草刈鎌などとともに「唐箕ハ 諸収穫物上中下二別ル具ナリ豎（たての意）三尺八寸 幅五尺 代価四円」と書かれていることから、唐箕はこのころから長野県下で一般的に使われ出したのかもしれませんが。

### 唐箕の形態分類

唐箕の形態分類は先行研究が多数ありますが、今回は細かい分類・分類方法については割愛したいと思います。唐箕は人工的に風を起こす送風部、穀物を流し込み送り出す漏斗部、そして比重に応じて分別する選別部

で構成されています。これらの三部の作りの違いによって地域性があり、一般的に唐箕の形態は西日本型と東日本型に分けられるというのが通説となっています。

小坂廣士氏の研究によると、それぞれの特徴として西日本型

|      | 送風部の<br>翼車軸指示具   | 漏斗            | 選別口 | 脚数          | 落下調整<br>装置 |
|------|------------------|---------------|-----|-------------|------------|
| 西日本型 | 太い柱で<br>支持されている  | 三角形、<br>取外し可能 | 並行  | 四本          | 正面操作       |
| 東日本型 | 短い縦木で<br>支持されている | 舟形            | 振分  | 六本以上の<br>多脚 | 側面操作       |

図1 小坂廣志氏による唐箕の分類

は「風を起こす車軸が太い柱で

支持され、穀類を流し込む漏斗

の形が三角形であり、入った穀

類を量的に加減する調節具が正

面側に設置され、選別された穀

類の排出口（選別口）が正面の

二箇所となっている（並列）、ま

た唐箕本体を支える脚は四脚」

となっています。東日本型の特

徴としては「風を起こす車軸が

短い縦木で支持されているこ

と、漏斗の形態が舟形であるこ

と、穀類の落下量の調整装置が

側面側にあること、また選別さ

れた穀類の排出口（選別口）は

正面と裏面との二方向へ落下し

（振分）、唐箕本体を支える脚

なっています。

Bの唐箕は（写真3）風を起

こすための羽根は四枚で唐箕本

体を支える脚は多脚、選別口で

ある一番口と二番口は前後振分

で、漏斗は取外し不可となっ

てAの唐箕と同じ形状となっ

ています。「長野県小県郡本原

村荒井 田中○次郎○○ 大正

斗年九月吉日新調」「うえだ本

元川原柳上 とうみや源兵衛

作」と墨書きがあります。

Cの唐箕は（写真4）風を起

こす羽根は四枚で、把手は金属

製のハンドルがついていて、唐

箕本体を支える脚は四本で選別

口である一番口と二番口は振分

で漏斗は取外し不可となってい

ます。「久田式唐箕」と商品名

が書かれています。

Dの唐箕は（写真5）風を起

こす羽根は四枚で、把手は金属

製のハンドルがついていて、唐

箕本体を支える脚は四本で選別

口である一番口と二番口は振分

で漏斗は取外し不可となってい

ます。「久田式唐箕」と商品名

が書かれています。

Dの唐箕は（写真5）風を起

こす羽根は四枚で、把手は金属

製のハンドルがついていて、唐

箕本体を支える脚は四本で選別

口である一番口と二番口は振分

で漏斗は取外し不可となってい



写真2 Aの唐箕  
漏斗の側面に「上田川原やぎ上 とうみや源兵衛作」と墨書きされている他に「明治25年9月新調」とも書かれている



写真3 Bの唐箕  
正面に「上田本元川原柳上 とうみや源兵衛作」と墨書きされている



写真4 Cの唐箕  
「久田式唐箕」と書かれており金物で出来ている翼車の上部に「合名会社 久田農具製作所」と書かれた銘板が取り付けられている



写真5 Dの唐箕  
漏斗に「KANAZAWASIKI」とローマ字で書かれている

こす羽根は四枚で、把手は金属製のハンドルがついていて、唐箕本体を支える脚は六本で多脚となっており、選別口である一番口と二番口は振分で漏斗は取外し可能となっています。「金沢式唐箕」と書かれていて、「昭和貳拾四年七月吉日 関 姓三郎」と墨書きがあります。

### それぞれの唐箕の特徴

以下四点の唐箕について作られた背景等を見ていきたいと思っています。

### A、Bの唐箕について

この二つの唐箕はどちらも形態としては東日本型に分類されます。また「上田川原やなぎ上とうみや源兵衛作」(Aの唐箕)「上田本元川原柳上とうみや源兵衛作」(Bの唐箕)と墨書きがされていて、「源」の刻印(写真



写真6 Bの唐箕に掘られた刻印逆さ文字になっているが「上田源」と彫られている。同じような刻印がAの唐箕にもある

6)が押されているのを見ると、同じ屋号の元で作られた唐箕であると思われます。「うえだ川原やなぎ上」「上田川原柳上」という地名は現在の上田市中央東に当たり、『上田市誌 歴史編』によると、その昔は「瓦焼」と書かれていて、漢字の通り上田藩の屋根瓦を焼いていたようですが、この地に瓦師が定住していた記録はないそうです。表記としては江戸時代の絵図は「瓦焼」となっていますが、やはり江戸時代の宝永三年の房山村指出帳には「川原焼」、その後明治になり「川原柳」と表記されるようになりましたが読み方は「かわらやき」のままとなっています。また、このあたりは城下町ではないのですが、北国街道と北上州街道(現群馬県)との分岐点にあたり商業も発展していたのではないのでしょうか。

「小県郡本原村荒井」と所在地が墨書きされているBの唐箕はまさにこの北上州街道によつて運ばれたことをみると、群

馬県への販売経路があったのではないかと推測します。(図2)

「とうみや源兵衛」という人物、または店がないかと『上田市誌』や『上田市商工人名録』『上田老舗図鑑』などで探しましたが行き当れませんでした。

地元上川原柳で尋ね歩いていると、橋詰嘉則氏に出会えました。この方は昭和十年生まれでご自分の家でも「とうみや源兵衛」の唐箕を使っていたそうです。

橋詰氏によると、この「とうみや源兵衛作」の唐箕を作っていたのは柳沢源兵衛さんという方で、「とうみや」と呼ばれていたそうです。源兵衛さんの家は上川原柳の公会堂近くの矢出沢川に架かる橋のたもとにあったそうで、何代も前から唐箕だけではなく、木工職人として注文を受けて作っていたそうです。また自分が知っている源兵衛さんは大東亜戦争で戦死し、その後家も途絶えてしまったようだ、とお話してくださいました。大東亜戦争とは太平洋戦争の日本側の呼称で昭和十二年から昭和二十年間を指しているとする



図2 上田の地図

Aは上川原柳の公会堂。その近くを流れる矢出沢川に架かる橋のたもととBの辺りに柳沢源兵衛さん宅があったと思われる場所

### Cの唐箕について

こちらの唐箕には「久田式唐箕」と大きく書かれ、翼車軸のついている主軸には銘板がついており、そこには「久田式唐箕 合名会社久田農具製作所 愛知県碧南市」と刻印されています

(写真7)。小型な作りで把手に金属を使っている点からも近代唐箕であることがわかります。愛知県碧南市というのは昭和二十三年に大浜町・新川町・棚尾町・旭村が合併してできた市なので当館にある久田式唐箕





写真7 Cの唐箕  
「合名会社 久田農具製作所」の銘板

は昭和二十三年以降に作られたものと思われます。大正十五年に長野県より出版された『改良農具二関スル調査』（当館蔵）には久田式動力人力兼用唐箕が掲載されており、すでにこの時期には長野県にも販路が作られていたことがわかります。また昭和四年農林省農務局出版の『優良農用器具機械二関スル調査』（当館蔵）や昭和九年十二月に大日本農機具協会が出した『農用器具機械ノ購入指針 本會證票ヲ貼付スル器具機械ノ名稱（第一回）』（当館蔵）に久田式唐箕が掲載されているのを見ると、昭和初期には全国的にシェアがあったのではないかと思います。

当館に収蔵されている久田式唐箕（C）は当館への寄贈記録が残っていないため、どの地区

で使われていたかも知れません。合名会社久田農具製作所のその後を知りたいと思いい『農機具名鑑』等で探しましたがたどり着けず、名

古屋法務局岡崎支局に問合せをしたところ昭和五十九年十一月三十日付で「総社員の同意により解散」となっていました。

#### Dの唐箕について

こちらの唐箕には「金沢式」と書かれた紙と、唐箕の説明文が貼られています（写真8）。また、もう一枚貼られた紙には



写真8 Dの唐箕に貼られた最新型金沢式唐箕の「使用法及特長」が書かれている。「農林省生産指定工場」とも記載されている

「中央價格査定委員會 第一〇一六六號二二・〇二円」と記載されています。唐箕本体には「B型長野県上水内郡新町金沢農機製作所」と書かれていました。上水内郡新町は現長野市信州新町で、山間の犀川に沿って国道十九号が幹線道路となっている地区です。『農機具名鑑』（当館蔵）で金沢農機製作所の住所を調べて行ってみると、国道十九号と並行した道沿いで古くからある商店が幾つもある旧道に面した場所でしたが、すでに更地になっていたので面影はありませんでした。近所を尋ね歩いてみると、最後の社長だった金沢守教さんはすでに亡くなられ十数年ほど前に廃業されたそうです。また、金沢守教氏の同級生という方からも話をお聞きできました。この方は林忠良氏（昭和五年生ま

れ）で、林氏によると金沢農機製作所の屋号は「入久」と言ったそうです。金沢守教氏の父陸海氏は金沢式唐箕を作りなが

ら村会議員を一期務めた方だったそうで、地元の名士だったのではないのでしょうか。林氏によると、守教氏より二、三代前から唐箕を製作していて、一番会社が発達した時は台湾にまで唐箕を輸出していたという話を聞いたことがある、とお話ししてくださいました。ただ日本の統治下の台湾・満州において唐箕の輸出に関する記載は確認できませんでしたが、Dの唐箕の漏斗のところにアルファベットで「KANAZAWA SIKI」と書かれているのを見ると輸出用にもなっていたのかもしれない。

当館に収蔵されている金沢式唐箕（D）は墨書きによると昭和二十四年七月吉日に関姓三郎という方が購入したようで、年代からみて先代の陸海氏の時の唐箕だったのではないかと思います。当館への搬入経路等は不明のためどの地区で使われていたのかはたどりつけませんでした。

#### さいごに

今回四つの唐箕についてその製作者を調べてみましたが、それぞれの背景をほんの少し垣間見ることができた気がします。唐箕は江戸時代後半から機械化

が浸透する昭和三十年頃まで長い間使われてきた農具ですが、大量生産される以前はそれぞれの作り手によって一つ一つ作られてきたということを実感しました。

記念館に見学にいらした方の中には「今でも家では蕎麦の選別に使っている」と教えてくださるお客様もあり、今なお活躍している唐箕もあるようです。改めて当館に見学にいらしたお客様の唐箕はどのような形をしていたのかと、今更ながら思いを馳せてしまいます。

#### 【参考文献】

- 『長野県の唐箕の特徴について』細井雄次郎 長野市立博物館紀要第十五号 平成二十六年
- 『長野県史 近代史料編 第五卷（二）産業 農業』長野県 平成元年
- 『農用器具機械ノ購入指針』大日本農機具協會 昭和九年
- 『非文字資料としての農書・風俗帳』佐々木長生 平成二十一年
- 『民具学事典』『紀年銘をもつ民具』『唐箕で読む』小坂廣志 日本民具学会編 令和二年
- 『上田市誌 歴史編七 城下町上田』平成十四年
- 『広辞苑』第七版 平成三十年
- 『農機具名鑑』株式会社近代農業社
- 『紀年名唐箕の形態分類』近藤雅樹 平成二十二年公開
- 『松本市史 第二巻歴史編Ⅱ近世』平成七年

# 公益財団法人松山記念館

## 2025年11月リニューアルオープン予定

### 松山記念館とは

松山原造が明治33年（1900年）に犁先が左右に切り替わる短床型双用犁を発明、翌年に「単鑊双用犁」と命名し特許登録、我が国における特許改良犁並びに双用犁の元祖となりました。

松山記念館は松山犁の資料を中心に歴史的評価のある文献、農具等を展示・公開し、目で見る歴史を学ぶ場として開設した民俗資料館です。

### 松山記念館の歩み

昭和52年、地元丸子町農協より米穀倉庫を譲り受け、資料収集を始めました。昭和60年に松山記念館を開館、平成3年に財団法人松山記念館設立が許可され、翌年には博物館法により登録博物館に認定されました。平成25年1月に公益財団法人松山記念館として登記されています。

昭和60年に開館してから今年で40年となり、施設老朽化や展示の刷新をするためにリニューアルを行いました。第一展示室と事務所棟は新築とし、第二展示室、第三展示室は内装を改修しました。

### 犁を通して農業を学ぶ

農業に携わる人や未来を担う子供たちに、農業の歴史を通して地域や自然のことを伝えたい。利用者が、松山犁を発明し普及に努めた足跡をたどりながら、畜力犁が普及し農業技術が進歩していく様子が実物資料を通して学べ、土を耕す歴史を実感できる展示となっています。

第一展示室は①松山原造の生い立ち②明治期の農業政策と農業教師松山原造③在来犁から近代犁へ④複式簿記⑤普及活動⑥創業期からの工場経営の進展  
第二展示室は①在来犁のいろいろ②松山犁③収集した畜力犁



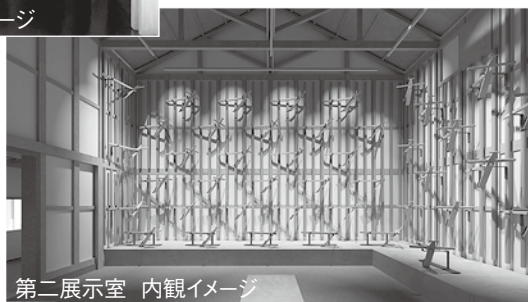
3月 解体工事開始



第一展示室 内観イメージ



5月8日 地鎮祭 信州海野宿 白鳥神社 石和宮司 様  
松山記念館関係者 栗木組関係者で行われました

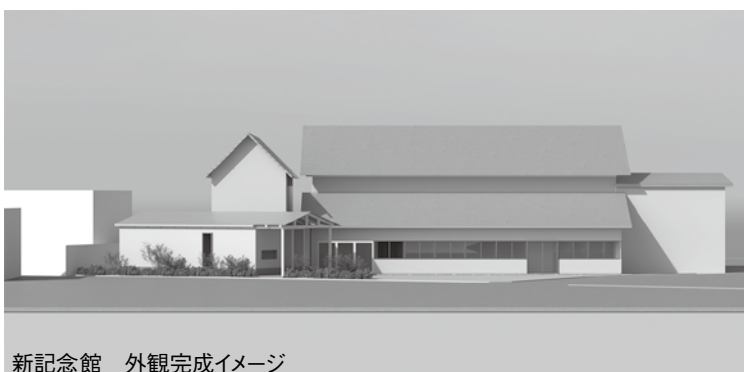


第二展示室 内観イメージ

④犁からトラクタ用作業機へ⑤犁製造部の様子  
第三展示室は①明治・大正期の稲作農具②農業の未来へとなっています。  
11月末にリニューアルオープン予定です。是非ともご来館していただきたくお願い申し上げます。



7月7日 上棟



新記念館 外観完成イメージ

### 公益財団法人 松山記念館

〒386-0401 長野県上田市塩川2874-1

電話 0268-35-3650

◇開館時間 10:00～16:00

◇休館日 土曜日、日曜日、国民の祝日  
盆 8/13～8/16

年末年始 12/29～1/5

◇入館料 無料



# 松山記念館日誌

| 月 | 日 | 曜日 | 内容・実施事項 |
|---|---|----|---------|
|---|---|----|---------|

## 令和6年(2024)年

|    |    |   |                                                    |
|----|----|---|----------------------------------------------------|
| 9  | 26 | 木 | 図書購入「一般公社団・財団法人の実務」                                |
| 10 | 11 | 金 | 第30回文化講演会・演題<br>「上田ワイン産業振興および地域の活性化に向けた椀子ワイナリーの役割」 |
| 10 | 22 | 火 | 木曽青峰高等学校・富士見高等学校へ図書等寄贈                             |
| 11 | 11 | 月 | 消火器の点検 (株)コウサカ…異常無し                                |
| 11 | 26 | 火 | ティラー用スキについて松山(株)のOB坪井努氏より聞き取り調査<br>(写真①)           |
| 12 | 13 | 金 | 令和6年理事会<br>(令和6年度中間事業報告と令和7年度事業計画、予算書等の承認他)        |
| 12 | 17 | 火 | 長野県立歴史館より<br>「描かれた川中島合戦」(屏風・錦絵に見る戦いの世界) 1札受贈       |
| 12 | 17 | 火 | 令和7年度事業計画書等の提出(行政庁長野県へ)                            |



①松山(株)OB坪井努氏より聞き取り調査

## 令和7年(2025)年

|       |     |     |                                                            |
|-------|-----|-----|------------------------------------------------------------|
| 12/28 | 1/5 | 土~日 | 12/28~1/5年末年始休業                                            |
| 1     | 6   | 月   | 開館、仕事始め                                                    |
| 1     | 20  | 月   | 令和6年度会計及び業務監査(監事2名)                                        |
| 1     | 31  | 金   | 土地家屋調査(新記念館建設のため近隣土地所有者と立会い)                               |
| 2     | 7   | 金   | 理事会(令和6年度事業報告及び決算の承認その他)                                   |
| 2     | 20  | 木   | 令和6年度博物館等関係職員研修会 長野県立歴史館<br>「文化財保護と文化財レスキュー」(松井学芸員・上田事務長)  |
| 2     | 21  | 金   | 令和6年度博物館等関係職員研修会 長野県立歴史館<br>「ときめきミュージアムとその役割」(松井学芸員・上田事務長) |
| 2     | 21  | 金   | 神奈川大学院生1名 踏勘調査で来館                                          |
| 2     | 25  | 火   | 松山犁寄付品引取り 原村(馬耕2段犁) (松井学芸員・上田)                             |
| 2     | 25  | 火   | 長野県立歴史館より<br>「2025年春号 長野県立歴史館たより」1冊受贈                      |
| 2     | 28  | 金   | 評議員会(前年度事業報告及び決算の承認その他)                                    |
| 3     | 11  | 火   | 長野県知事宛「事業報告等の提出書」提出                                        |
| 3     | 24  | 月   | 仮事務所移転 松山(株)記念館分館へ                                         |
| 3     | 25  | 火   | 松山記念館解体工事スタート 理事長、ご近所へ挨拶回り                                 |
| 3     | 27  | 木   | 熊本学園大学付属産業経済研究所より<br>産業遺産の宝庫「来民文庫」の調査研究 1冊受贈               |
| 4     | 2   | 水   | 松山(株)OB土屋仁一氏より工具について聞き取り調査(写真②)                            |
| 4     | 16  | 水   | 図書寄贈説明訪問 塩尻志学館高校                                           |
| 4     | 25  | 金   | 福井努理事 聞き取り調査(田中理事・松井学芸員・上田)                                |
| 4     | 25  | 金   | 西尾和実評議員葬儀(4/21ご逝去)<br>参列:松山理事長・記念館関係者                      |
| 4     | 28  | 月   | 図書寄贈説明訪問 丸子修学館高校                                           |
| 5     | 8   | 木   | 新記念館起工式(地鎮祭)<br>白鳥神社石和神官・理事長・記念館関係者・工事関係者                  |
| 5     | 15  | 木   | 消火器の点検 (株)コウサカ…異常無し                                        |
| 5     | 22  | 木   | 長野県博物館協議会総会 参加:松井学芸員・上田事務長                                 |
| 6     | 2   | 月   | 松山(株)新入社員研修14名                                             |
| 6     | 18  | 水   | 長野県立歴史館より 信濃の風土と歴史29「原始」1冊受贈                               |
| 7     | 5   | 土   | 米熊慎蔵龍馬会総会 参加:松山理事長・上田事務長                                   |
| 7     | 11  | 金   | 松山記念館視察研修会<br>井戸尻考古館・サントリー白州蒸留所 11名参加(写真③)                 |
| 7     | 31  | 木   | 関東甲信クボタ新入社員研修16名                                           |
| 8     | 1   | 金   | 松山記念館「資金運用規程」新設 書面決議により                                    |
| 10    | 24  | 金   | 第31回文化講演会「150年前の信州」 講師:新井寛子氏                               |



②松山(株)OB土屋仁一氏より聞き取り調査



③視察研修 井戸尻考古館にて



記念館リノベーション会議の様子

## 文化講演会開催

令和六年十月十一日(金)松山記念館主催、上田市・上田市教育委員会後援で、松山(株)三階ホールにて、第三十回文化講演会を開催した。

講師に、メルシャンワイン(株)のシャトー・メルシャン事業部GMで工学博士の小林弘憲氏にお願いし、演題『上田ワイン産業振興および地域の活性化に向けた梔子ワイナリーの役割』をテーマとして講演された。

(聴講者：百五十人)

講演会に先立ち、主催者を代表して松山久理事長が挨拶に立ち、今講演会のご後援をいただいた上田市、上田市教育委員会と、ご多忙のなか本日の講演をお引き受けいただいた講師にお礼の言葉を述べると共に、五年前の文化講演会における馬耕伝習者とメルシャンとの出会いに触れ、「フランスのワインの産地・ブルゴーニュでは耕作地が狭いのでブドウ栽培はうね幅を狭くしてたくさん苗木を植え、馬耕によって栽培管理をすることなどを紹介。

介。上田ワインのさらなる振興に向けて講演が有意義になるよう期待したい」と述べた。

続いて後援者を代表して上田市丸子地域自治センターの中村尚文センター長が「気候変動など農業を取り巻く環境は厳しいものがあるが、気候、風土など様々な地域特性を活かした農業の振興が必要である」と挨拶。

続いて講師のプロフィールが紹介され、講演に入った。

講演で小林GMは、メルシャンの歴史、日本ワインの現在の立ち位置(消費量は四十年間で八倍)などを説明した後、どういいうビジョンでワイン造りに取り組んでいるかについて「日本を世界の銘醸地にしたいという大きなスローガンがあります。海外からはまだ、日本はワインを造っているのか、という見方もあるので、我々の活動を世界に知ってもらって、日本のワインの良さを広めたい」と強調した。そして梔子ワイナリーが掲げる三つのキーワードとして、①地域との共生②自然との共生③未来との共生を紹介。

## 理事会開催

★令和六年十二月十三日(金)協同サービス(株)二階ホールにおいて、第三十回理事会が開催され、

①令和七年度事業計画書(案)・同収支予算書(案)について審議され、出席者全員の承認を得た。

②その他報告事項承認。

★令和七年二月七日(金)協同サービス(株)二階ホールにおいて、第三十一回理事会が開催され、

①令和六年度事業報告書(案)及び事業報告の付属明細並びに同収支決算書(案)及び財務諸表等を、監事による会計監査報告の後審議され、出席者全員の承認を得た。

②定例評議員会の招集について、令和七年二月二十八日(金)協同サービス(株)二階ホールにおいて、開催を可決承認。

③その他報告事項承認。

## 評議員会開催

★令和七年二月二十八日(金)協同サービス(株)二階ホールにおいて、第十七回評議員会が開催された。

①令和六年度事業報告書(案)及び事業報告の付属明細並びに同収支決算書(案)及び財務諸表等を、

監事による会計監査報告の後審議され、出席者全員の承認を得た。

②その他報告事項承認。

## 松山(株)新入社員の研修見学

松山(株)の令和七年度新入社員は、六月二日(月)松山記念館分館において、松山(株)創業者松山原造の生立ち、創業以来の掣及び掣の歴史を研修した。

## 令和六年度当館見学者

開館日数 二百三十九日  
見学者総数 三百六十人

## 〈内訳〉

県外(含む外国) 六八・一％  
東信 一九・四％  
北信 七・二％  
南信 〇・六％  
中信 四・七％

## 第三十一回文化講演会決定

日時：令和七年十月二十四日(金)  
場所：松山(株)三階ホール  
講師：長野県立歴史館・学芸部・文献史料課・文化財指導主事 新井寛子氏  
演題：「百五十年前の信州」  
主催：公益財団法人松山記念館  
後援：上田市、上田市教育委員会